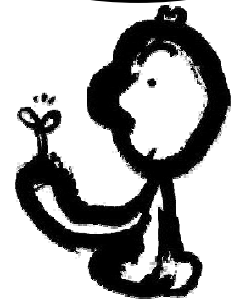


NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F)
TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786
e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

人口減少社会とボランティア社会

人口減少社会の到来が叫ばれて久しいが、2006年に人口は初めて減少局面に入ったと宣言されました。まだ先のことかと思っていたのでなんだか不意打ちをくらったような気分です。多少の誤差はあるけれど、人口推移のカーブはこれまでの傾向と対称形で減少していきだろうと言われていますが、これまでの過疎とは全く異なる局面を迎えています。過疎は、地方からの都市への人口流入によりおこりますが、人口減少は、都市と農村・山間地で同時に進行します。どちらかが片方を支援すれば良いということにはならないというところがこの事態の深刻な点です。

人口減少を前提にするとこれまでの「成長」「発展」といった尺度では「衰退」「停滞」「荒廃」といった将来しか見えてきません。しかし、本当にそうなのでしょうか？むしろ「成長」や「発展」という尺度しかないために省みられなかった価値を見直すチャンスが訪れたと考えるべきだと思いませんか。人口増大の時代では、他人を押しつけて前へでることで競争に勝たないと生き残れないという強迫観念がありました。しかし、人口減少の時代では、人々が支え合わないと地域社会は維持できなくなっています。それは、やがて人と人の距離をいやでも近づけることになるように思います。「成長」より「成熟」を「発展」より「持続」を目指すことで、より文化性と信頼性の高い豊かな地域社会を形成し、美しい風景・景観を持つ地域の独自性を追求することが公共目的となり得る時代になったと考えるべきではないでしょうか。

このような時代にこそボランティアが大きな鍵になります。ボランティアこそが新しい価値創造の垣根だからです。私たち「しみん基金・KOBÉ」は、そのような大きな流れの中に小さな草の根の種を少しでも多くまくことができればと願っています。そのために多くの皆様の支援をお願いいたします。

しみん基金・KOBÉ 常務理事 野崎 隆一

主な目次

- | | |
|--|--|
| ◆ ぼたんの会「1・17メモリアルコンサート」 --- 2 | ◆ 2007年度はあ-とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」
支援事業の中間報告----- 5 |
| ◆ しみん基金 KOBÉ 助成事業授与式
「夜会・ぼたんの会 Vol.5」ご案内 ----- 3 | ◆ しみん基金こうべ総会のご案内 ----- 5 |
| ◆ ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク研究会
「共同募金改革の方向性を聴く」----- 4 | ◆ 12年目のひとり言 ----- 6 |
| | ◆ 会員数とご寄付のご報告----- 6 |



～ぼたんの会 1.17メモリアル・コンサート～

竹下景子 “詩の朗読と音楽の夕べ”

ご報告

震災から12回目の1月17日、今年も神戸新聞松方ホールにて、ぼたんの会実行委員会等の主催で「1.17メモリアルコンサート竹下景子さん“詩の朗読と音楽の夕べ”」を開催いたしました。竹下さんは、毎年この舞台上、「夢」・「希望」・「愛」・「勇気」をテーマに全国から寄せられ厳選された詩を、心をこめて朗読されます。

私たちは、あの震災の経験を通じて自然の大きな力の前では人間の行為など無力であることを、またその復興の過程を通じて人と人との絆の大切さを、思い知りました。しかしながら、月日が流れて、そのことはともすれば忘れられがちです。毎年、このコンサートの時空間を共有することで、そのことを思い返し初心に帰ることの大切さを教えられます。

今年は、600名近くの人たちがこのコンサートに参会されました。会場のあちらこちらで涙を拭う光景がみられ、このコンサートの意義をあらためて深く印象づけられました。

「ぼたんの会」は、文化を通じて新しい社会貢献(寄付文化)のスタイルを確立するために、震災後に生まれたNGO/NPO14団体で構成された協働プロジェクトで、しみん基金K O B Eがその事務局を担っています。このコンサートでの収益金の一部は、各構成団体に還元されます。しみん基金K O B Eへ還元された収益金は、草の根市民活動を支援する助成金に充当されます。このような試みは、神戸発のファンド・レイジング手法として定着してきています。



竹下さんの朗読は、詩の内面まで表現するようで、心に深く沁みこんでいきます。また、林晶彦さんの即興演奏が詩のイメージをより広げてくれます。



「マリオネット」によるポルトガルギターやマンドリンの演奏。エキゾチックで繊細、時には情熱的に、聴くもののココロを揺さぶります。



竹下景子さんと黒田理事長のツーショット。
笑顔がとっても素敵です。

～ 詩の優秀作品入選者～ (プログラム順)

中野知沙子さん(神戸市立大山寺中学)
古明地良子さん(川西市) 平岡淳子さん(東京都)
大窪純子さん(神戸市) 木村香織さん(加古川市)
三川範彦さん(神戸市) 真田正章さん(姫路市)



平成18年度しみん基金こうべ助成事業授与式

1・17メモリアルコンサート開催に先立ち、今年は初めての試みとして、この舞台をお借りして平成18年度しみん基金こうべ助成事業の授与式を行いました。

これは、来場された皆さんにこのコンサートの収益の一部がどのような市民活動の支援に使われているのかを知ってもらうことを、また、助成を受けた団体には託された助成金がどのような想いで集められたお金なのかを理解していただくことを、ねらいとしたものです。

これを通じて、市民が自ら市民活動を支える寄付と助成の循環を見える形で表現することができました。



ぼたんの会・夜会 vol.5

ぼたんの会実行委員会では、5月に「ぼたんの会・夜会Vol.5」を開催いたします。

震災からの復興の過程で生まれてきた様々なボランタリーな活動は、今や地域社会の中でなくてはならない存在になってきています。こうした活動を支える仕組みのひとつとして、寄付という参加の形があることを多くの人に知ってもらいたいという想いで企画されたこの会も、今回で節目の5回目を迎えることとなります。

美しい音楽とエンターテイメント、美味しい料理に囲まれたお洒落な一夜を楽しんでいただけます。皆様のお越しをお待ちしています。

日時：2007年 5月 18日(金)

開場 18:00～ 開演 18:30～

会場：北野ガーデン

神戸市中央区北野町2-8-1

JR・阪急・阪神「三宮」駅より徒歩10分

TEL 078-241-2411

出演：安藤義則(ジャズピアノ)

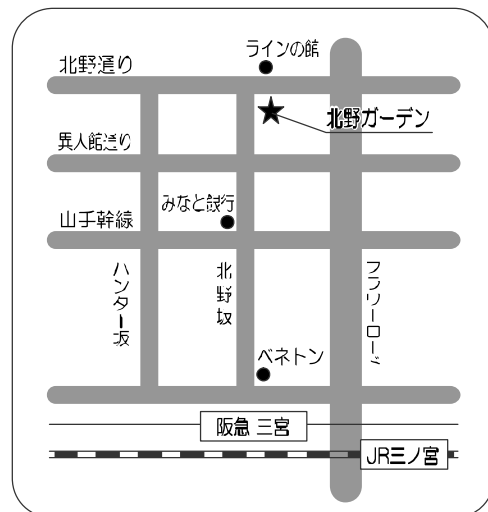
摩耶はるこ(シンガーソングライター)

チリ・デウィ(バリダンス)

林敏之(ラグビー)

ヴィッセル神戸(サッカー)

司会：小山乃里子



～チケットのお求めは、しみん基金・K O B E 事務局 (tel: 078-230-9774) まで～



ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク主催

研究会『共同募金改革の方向性を聴く』

ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワークとは、兵庫県内の市民公益活動に対して助成活動を行っている民間組織間の緩やかなネットワークで、しみん基金・K O B E は、その事務局を担っています。2006年4月発足で、代表は当基金の今田忠 理事兼事務局長が務めています。

2007年2月25日(日)に、「ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク」主催の研究会「共同募金改革の方向性を聴く」を、社会福祉法人中央共同募金会・企画広報副部長の阿部陽一郎氏と、共同募金改革・企画推進委員会メンバーで有限会社コラボねっと取締役の石井布紀子さんをゲストにお招きして、神戸新聞社にて開催しました。

まず阿部氏から、憲法 89 条の規定や社会福祉事業法における位置づけ、社会福祉協議会との関係など、共同募金運動の戦後史を振り返り、国民たすけあい運動から狭義の社会福祉施設への支援等へ変容してきた経緯が説明されました。その後、1990 年代以降の社会システム変容に伴う社会福祉制度の変化を 2000 年の社会福祉法への改正などの文脈を踏まえて説明いただき、その上で今回の改革について下記の 10 のポイントに即して解説いただき、市町村単位で住民参加による循環型の地域福祉活動を支援するファンドへと生まれ変わることが強調されました。

また、石井さんからは、大規模災害等に即応できる緊急支援の観点から最近の共同募金での取り組みと今後の課題について説明いただきました。

その後、参加者との質疑応答のなかでは、理念としての改革の方向性は良いがそれを支える組織や仕組みをどのように変えていくかの具体的なところがまだ明確でないことへの懸念について議論がありました。また、生まれ変わる共同募金が他の民間募金ファンドの脅威になることへの懸念も指摘されました。

これらの議論を通して、ファンドの担い手としてのプログラム・オフィサーやファンド・レイザーなどの専門的な人材育成と、日本の寄付文化の裾野を広げていくことでファンド間相互の適切な棲み分けを構想することの大切さが浮き彫りになったように感じました。

「共同募金改革」の方向性 ～「地域をつくる市民を応援するファンド」10 のポイント

地域社会(コミュニティ)再生のための新しい地域貢献型の機能に変わります。

自発的・自律的な市民の活動や、NPO を支援する機能に変わります。

地域で信頼のネットワーク形成を支援する機能に変わります。

安心・安全の地域開発の福祉コミュニティづくりを資金面で計画的に支える機能を強めます。

助成や募金活動を通じて、人と人との新たなつながりをつくったり、新たな価値の形成につながる運動に変わります。

社会的な課題解決のためのキャンペーン型機能も取り入れます。

市民の社会参加を寄付という形で実現します。

募金期間だけでなく、年間を通して、市民参画を進める共同募金に変わります。

企業の社会貢献活動と連携して寄付の仕組みを増やします。

寄付や助成の流れや仕組みや支える「人」の力を高めます。

2007年度 はあ〜とふるふぁんど 「ひょうごボランティアあしすと」支援金 中間報告

今年も1月9日～2月28日まで、はあ〜とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援金申請の受付を行い、兵庫県内のさまざまなボランティア団体などから156件の応募がありました。

この事業は、兵庫県遊技業協同組合・ラジオ関西・神戸新聞事業社で構成された「はあ〜とふるふぁんど委員会」が行うものであり、しみん基金・こうべはその助成事務等を毎年受託しています。

今後、4月上旬に審査会が開かれ、支援先が決定されます。(次号でこの結果報告をする予定です。)

「はあ〜とふるふぁんど」とは、兵庫県遊技業協同組合加盟の遊技ホールのお客様の協力を得て、遊技時に出たこぼれ玉や景品交換後の余り玉、それにホールからの寄付金を加えて積み立てられた基金です。この基金をもとに、年3回に分けて、県内の福祉事業、ユネスコ活動事業、地域振興事業を支援していて、「ひょうごボランティアあしすと」支援事業は に該当します。

毎日新聞神戸支局からご寄付をいただきました

2006年12月18日(月)、古賀攻・毎日新聞神戸支局長様より寄付金(¥668,351)の贈呈をいただきました。これは、12月14日(木)に毎日新聞神戸ビル3F・毎日ホールで開催された毎日新聞神戸支局主催による年末恒例の「第15回チャリティー・オークション」の収益金の一部です。毎年、100名以上の方が会場に詰め掛けて、賑やかに出品を競り落とされるそうです。温かいお志に心より感謝申し上げます。



平成19年度しみん基金・こうべ総会 & 平成18年度助成成果報告会 開催のご案内

来る2007年5月29日(火)16:00より、平成19年度特定非営利活動法人しみん基金・こうべ総会を開催する予定です。平成18年度の事業報告及び決算報告と平成19年度の事業計画・予算計画を審議いたします。

また、今回は平成18年度助成事業の助成団体による成果報告会と懇親会も同時に開催する予定です。これは、助成事業の成果の共有と助成団体との交流の機会の提供を目的としています。

日時:2007年5月29日(火)16:00～20:00

場所:コミスタこうべ(神戸市生涯学習支援センター)

305号室・307号室

住所:神戸市中央区吾妻通4丁目1-6

TEL:078-251-4731

スケジュール(予定):

16:00～16:50 平成19年度しみん基金・こうべ総会

17:00～18:30 平成18年度助成事業成果報告会

18:40～20:00 交流懇親会

リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法

古着: オレンジスリフティ TEL 078-858-7090
〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208
オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・送付の際は、メモにて「リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないシミのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家具・家電製品: しみん基金・K O B E 事務局

TEL 078-230-9774

- ・まずはお電話ください。提携先企業より係員を派遣して品物を確認させていただきます。
- ・家電製品につきましては、2002年以降製造のものしかお取り扱いできません。ご了承ください。
- ・再販売できるものが対象ですので、状態によってはご協力いただけない場合がございます。



12年目のひとり言
～ 共助と自助～



「ボランティア元年」と呼ばれた阪神・淡路大震災から12年、暦が一回りした事になる。しみん基金・こうべも震災の4年後に設立し、今年で8年目を迎える。設立からこれまでの間、助成事業や受託事業を通じて、被災地をはじめとする兵庫県下の市民活動の成長と実態を目の当たりにしてきたが、ここ最近特に感じることは市民活動団体間の「格差」がかなり付いてきた事と事業内容に平準化が見られるという点である。

いずれも資本主義社会においては当然と捉えられがちだが、未だ未成熟で発展途上段階のボランティアな活動を理念とする市民活動分野にこの考えをそのまま持ち込むことには違和感を覚える。「格差」は社会の中で手の及ばない社会的弱者を支える草の根の活動を淘汰する危険性を孕み、「平準化」は活動自体の画一化（行政化）を生む可能性がある。

しかしながら、これらの問題は誰かが解決してくれる訳ではない。市民活動が今後、成熟していく為には、これらの問題を自らの手で解決していかなければならない。キーワードは「共助」と「自助」ではないか。「共助」とは読んで字の如く「共に助け合うこと」市民活動を行っている団体間のネットワーキングや情報の共有化等をしっかりと行うことで、弱きを救う仕組みづくりが必要だと思う。その上で「自助」を求めるべきではないか。「自助」とは「他人の力を借りず、自らの力で切り抜けること」である。震災直後の避難所等では「共助」と「自助」が実に見事に発揮されたケースが多々あったと記憶している。

暦が一回りした今こそ、原点に戻り、市民活動というフィールドを考え直すべきだと思う。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 40名 団体 5名

賛助会員 個人 133名 団体 14名

(2007年3月末現在)

寄付・募金合計金額 4,031,251円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

金谷朋治、中島秀男、毎日新聞・神戸支局、白水土郎、オレンジスリフティ、こうべリサイクルセンター、ベイエリア、しみん事業サポートネットワーク、神戸復興塾、兵庫遊技業協同組合、木村暉美、ぼたんの会実行委員会、摩耶はるこ、匿名1名

(2006年11月～2007年3月)

皆様に、心よりお礼申し上げます。

次号の予告(2007年6月発行予定)

- ・はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業の最終報告
- ・しみん基金・こうべ総会報告 など

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」

あ と が き

3月のNPO学会・公開シンポジウム「地域力とNPO」の中から印象に残ったことを、地域づくりで大切な役割を果たす人のたとえで、「土の人」= 地元でその地域を愛する人、「風の人」= よそから来て、新しい風を吹かせる人、とは良く言われることである。それに加えて、「水の人」= 表面にはでないけれど、うまくいろいろなつながりができる人、「火の人」= 火付け役・ジャーナリストもこの役割、というのでは、というお話に妙に納得させられました。(え)